様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月９日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５２０６５０
研究課題名（和文）小学校英語必修化後の新たな測定・評価の方法論構築に関する研究
研究課題名（英文）Study on Establishing a New Methodology for Assessment and Evaluation after “English Activities” Becomes a Compulsory Subject in Elementary Schools

研究代表者
中村　典生（NAKAMURA NORIO）
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：70285758

研究成果の概要（和文）： 日本・韓国の児童約 1800 名を対象に語彙（英語ノートから抜粋）に関する調査を行い、両国の語彙習得の特性を明らかにした。また、日本の小学生の特徴をふまえ、外国語への慣れ親しみに関する評価の指標となる語彙技能習得ランキング表を作成した。さらに、語彙技能を測定、評価するとともに、学習にも応用できる、音声認識エンジンを搭載したソフトウェアを開発した。

研究成果の概要（英文）： An investigation was carried out to look at the characteristics of vocabulary items intended for instruction to 1,800 elementary school students in Japan and South Korea. In this study, the items examined were taken from “English Note” used in elementary school classrooms. To access the degree to which the school children are familiar with English words, the items were ranked by level of difficulty. In addition, a software program equipped with a speech recognition engine was developed in order to enable elementary school teachers to assess and evaluate their students’ word skills. This software can also be used by students as a vocabulary study aid.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１０年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１１年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：　言語学・外国語教育
キーワード：　早期英語教育、外国語活動、測定、評価、小中連携、語彙習得、自己評価

１．研究開始当初の背景

(1) 2008 年 3 月 28 日に告示された小学校学習指導要領において、2011 年度からの外国語活動の必修化が示された。様々な変革の中、議論が必要な重要な問題の一つに評価の問題があった。

(2) 外国語活動の目標には(i)言語や文化に関する体験的な理解、(ii)コミュニケーションに対する積極的な態度の育成、(iii)音声や表現に対する慣れ親しみ、の３つの柱がある。(i)(ii)は情意面、(iii)はスキル面に関

する目標と捉えることができる。但し、(iii)は(i)(ii)に則した活動を通して身につくものとされている。

(3) 外国語活動」を行った結果、情意面ばかりでなく、結果的にスキルが身につくことを考えると、この身についたスキルの側面を（テストという厳格な形ではなく）簡単に測定・評価することができれば、指導者が指導方法を顧みることができる材料となり、現場には有効であるはずである。

２．研究の目的

(1) 児童・生徒がどのような形でスキルの一面である語彙力を育てていくかを明らかにする。

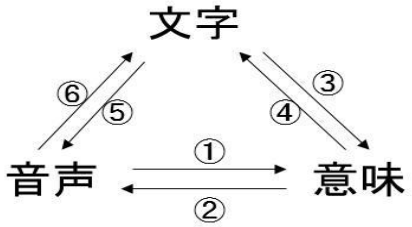
(2)(1)をもとに客観的な語彙力の評価基準を作る

(3) ICT を活用した手軽で有効な測定・評価方法を考案する。

(4) 語彙力（スキル面）と情意面の接点について明らかにする。

３．研究の方法

(1) 語彙習得の一面を音声・文字・意味を結ぶ双方向の関係（6 技能）の習得と捉えた独自の語彙習得モデル（多角的語彙習得モデル、と称する。以下の図を参照）に基づき、大規模な語彙調査を日本のみならず海外で実施する。なお、語彙はすべて「英語ノート」から抜粋する。



（多角的語彙習得モデル）

(2) (1)で収集したデータをもとに、日本の小学生が語彙力をどのように伸ばしていくか、という特徴を、海外の児童との比較から明らかにする。

(3) (2)で明らかとなった児童の語彙に対する慣れ親しみをもとに、6 つの語彙技能を有機的に結合させた語彙の慣れ親しみランキング表を作成する。

(4) (3)を結果的に身についたスキルとして、測定・評価に活用できる方法を考案する。

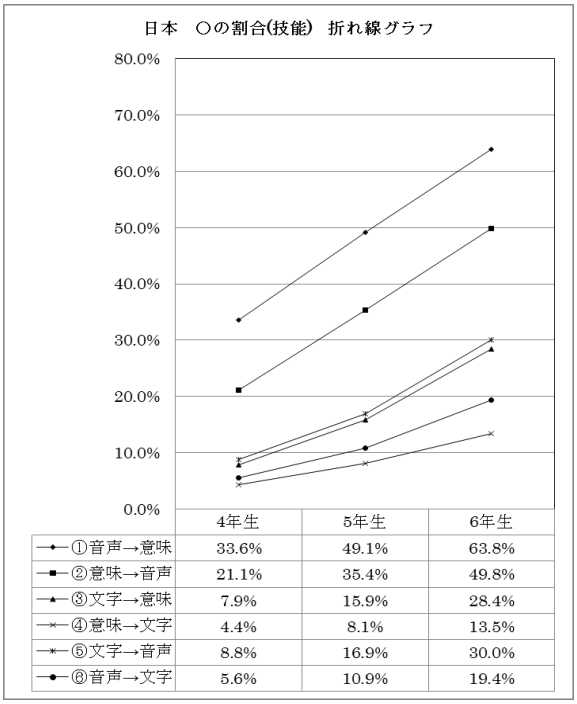
(5) (3)をもとに、ICT を活用して簡単に語彙力を測定・評価できる方法を確立する。

(6) (1)～(6)と並行して、情意面に関するアンケートも実施し、スキルと情意の接点について明らかにする。

４．研究成果

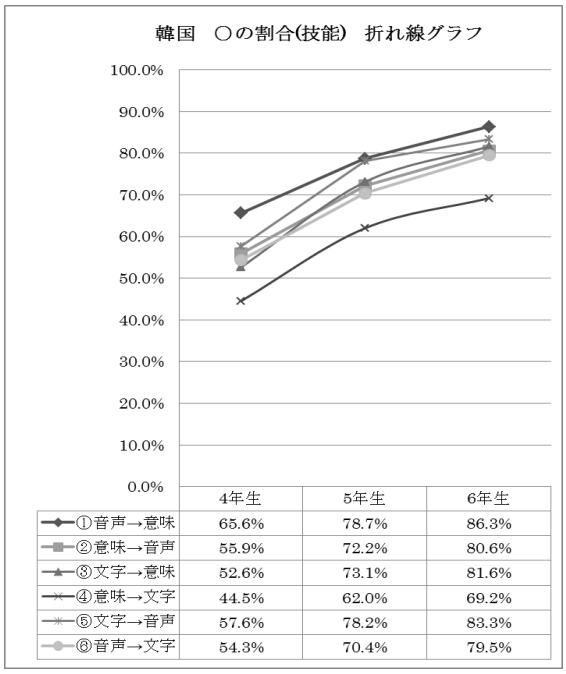
(1) 日本・韓国の小学生における、語彙取得傾向を以下の図のように明らかにした。（表中の%はすべての児童が「わかる○」と回答した場合を 100%として算出している）

日本　４～６年　○の割合



	4年生	5年生	6年生
①音声→意味	33.6%	49.1%	63.8%
②意味→音声	21.1%	35.4%	49.8%
③文字→意味	7.9%	15.9%	28.4%
④意味→文字	4.4%	8.1%	13.5%
⑤文字→音声	8.8%	16.9%	30.0%
⑥音声→文字	5.6%	10.9%	19.4%

韓国　４～６年　〇の割合



	4年生	5年生	6年生
①音声→意味	65.6%	78.7%	86.3%
②意味→音声	55.9%	72.2%	80.6%
③文字→意味	52.6%	73.1%	81.6%
④意味→文字	44.5%	62.0%	69.2%
⑤文字→音声	57.6%	78.2%	83.3%
⑥音声→文字	54.3%	70.4%	79.5%

(2) 主成分分析をもとに、日本・韓国の語彙に対する慣れ親しみのランキング表を作成した。以下にその一部を抜粋する。

日本６年生全技能（①～⑥）ランキング

日本6年全技能		RANK
P.E.	2.5106	1
moon	2.1360	2
baseball	1.4793	3
October	1.4180	4
Friday	1.4115	5
July	1.3363	6
bear	1.1438	7
sleepy	1.1192	8
sing	0.9437	9
Tuesday	0.8633	10
fly	0.7221	11
mouth	0.6812	12
eat	0.6570	13
cute	0.6496	14
study	0.5783	15
math	0.5768	16
sister	0.5676	17
white	0.5043	18
father	0.4240	19
bank	0.3384	20
hospital	0.2522	21
help	0.1174	22
nurse	0.1097	23
pudding	0.0803	24
shoulder	0.0394	25
post office	−0.0002	26
glove	−0.0551	27
bread	−0.1254	28
riceball	−0.2883	29
science	−0.3323	30
bath	−0.4173	31
student	−0.4542	32
clean	−0.5169	33
festival	−0.6840	34
castle	−0.7986	35
turn	−0.8226	36
sweater	−0.8230	37
straight	−0.8530	38
knee	−0.8555	39
beach	−0.9088	40
florist	−0.9391	41
baker	−0.9544	42
giraffe	−1.1480	43
barbershop	−1.1692	44
history	−1.2255	45
camel	−1.2489	46
farmer	−1.3622	47
earth	−1.3728	48
dentist	−1.3863	49
cereal	−1.9183	50

韓国６年生全技能（①～⑥）ランキング

韓国6年全技能		RANK
sing	1.2058	1
fly	1.0535	2
nurse	1.0511	3
baseball	1.0482	4
Friday	1.0014	5
bear	0.9843	6
moon	0.9622	7
cute	0.9399	8
study	0.8948	9
father	0.8620	10
bank	0.8271	11
bread	0.7951	12
mouth	0.7764	13
eat	0.7658	14
post office	0.7421	15
hospital	0.7362	16
white	0.7115	17
clean	0.6969	18
turn	0.6795	19
sister	0.6608	20
October	0.5800	21
beach	0.5761	22
help	0.5596	23
science	0.3880	24
student	0.3623	25
July	0.3180	26
sleepy	0.2976	27
math	0.1760	28
Tuesday	0.0258	29
farmer	−0.1435	30
straight	−0.2419	31
pudding	−0.2726	32
glove	−0.3413	33
baker	−0.3538	34
bath	−0.4008	35
history	−0.4021	36
sweater	−0.5781	37
P.E.	−0.6614	38
earth	−0.6756	39
festival	−0.7347	40
dentist	−0.7651	41
knee	−0.8837	42
shoulder	−0.9086	43
giraffe	−1.2606	44
castle	−1.3119	45
cereal	−1.4670	46
riceball	−1.9770	47
barbershop	−2.2827	48
florist	−2.2863	49
camel	−2.7294	50

(3) (2)のランキング表を、実際に小学校で利用してもらい、その有効性と活用の可能性について明らかにした。その活用の可能性として、小中を連携する際の資料とできる、などの意見を収集した。

(4) 語彙技能を測定・評価するとともに、児童の学習にも応用できる、音声認識エンジンを搭載したソフトウェアを開発した。画面の一部を以下に掲載する。

(5) 語彙力（スキル面）と情意面

語彙力（スキル面）と情意面の接点に関して、小学校では情意に付随してスキルが伸びる、ということが明らかとなった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

① 中村典生・林田宏一、高校生の語彙技能習得の傾向に関するパイロット・スタディ、言語文化学会論集、第 32 号、2009. 5、113 頁～130 頁.　（査読有）

② 中村典生・末松綾・林田宏一、 小学校英語が中学校の英語学習に及ぼす影響について−語彙の自己評価に焦点を当てて−、小学校英語教育学会紀要、第 10 号、2010. 3、25 頁～30 頁.　（査読有）

③ 中村典生・林田宏一、やってみたい活動とスキルはどう関係しているのか−小学生の聞きたい・話したい・読みたい・書きたいという「思い」に焦点をあてて− 、言語文化学会論集、第 35 号、2010. 12、45 頁～60 頁.　（査読有）

④ 中村典生、小学校英語における情意面と自己評価における語彙スキルの接点に関する試行研究 IRICE PLAZA、第 21 号、2011. 3、125 頁～134 頁.　（査読有）

⑤ 中村典生・井元彩奈・林田宏一、英語を学び続ける動機づけについて、言語文化

学会論集、第 37 号、2011．12、123 頁～144 頁．（査読有）

⑥ 中村典生、外国語活動で身につく語彙技能、北海道教育大学研究紀要（教育科学編）、第 62 巻、第 2 号、2012．2、173 頁～187 頁．（査読有）

〔学会発表〕（計 7 件）

① 中村典生、中学との連携をどう考えたらいいのか、中部地区英語教育学会、2009 年 6 月 28 日、常葉学園大学.

② 中村典生・末松綾・林田宏一、小学校英語が中学校での英語学習に及ぼす影響について、小学校英語教育学会、2009 年 7 月 19 日、東京学芸大学.

③ 中村典生、小学校英語における態度面とスキル面の関係、日本教育心理学会、2009 年 9 月 22 日、静岡大学.

④ 中村典生・林田宏一、小学校英語における態度とスキルの接点に関するパイロット・スタディ、小学校英語教育学会、2010 年 7 月 19 日、北海道工業大学.

⑤ 中村典生、小学校英語で「結果的に」身についているスキル、言語文化学会、2010 年 12 月 18 日、北海道教育大学釧路校.

⑥ 中村典生・林田宏一、外国語活動で「結果的に」身につく力とは何か －小中連携を視座に－、小学校英語教育学、2011 年 7 月 17 日、大阪教育大学柏原キャンパス.

⑦ 中村典生、外国語活動で養われた素地を活かし中学校で４技能の指導を効果的に行う方法、十五大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会、2011 年 10 月 7 日、ホテルライフォート札幌.

６．研究組織

(1)研究代表者

中村　典生（NAKAMURA NORIO）
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：70285758